友愛

発行所
友愛青年同志会
東京都文京区音羽町7の10　電話大塚（94）2801
編集兼発行人　渡辺　昇
定価　1部10円

入会申込は直接本部までハガキで一報下さい
東京都文京区音羽七ノ一〇
友愛青年同志会

友愛山荘建設運動

山荘第一号をめざす

各地とも大いに頑張る

友愛山荘を全国各地に建てようとする運動は、先の全国大会において決定して以来、当初予定した候補地以外からも敷地の提供や既成施設活用の申し出があるなど、建設への意欲は全国的に高かまってきた。特に尾道をはじめ数ヵ所の候補地では本部と協力具体的な募金運動を展開するまでになった。このような動きに対処するため、友愛山荘建設委員会では、十五ヵ所の建設予定地の中からとりあえず数ヵ所を選定し、友愛山荘第一号はおそくも明年四月着工をめざし、募金運動に拍車をかけるとともに建設後の友愛山荘を運営、管理する財団法人日本友愛青年協会（仮称）の設立準備を急ぐことになった。

友愛山荘建設の必要性は、いまさらいうまでもないが、年々増加する軽井沢友愛山荘の利用者をみるにつけ、全国的に山荘があったらと、はがゆい思いをするのである最近では、この種施設をつくろうと、岸首相も「青年の家」の構想をもらしているし、ユース・ホステル式の旅館もたしかに多くなっているが、純然たるユース・ホステルといえる施設は、非常に少ないのである。

この現状からもわが友愛山荘の建設運動は大きな意義を持っもので一日も早く一つでも多く建設できる日が待たれているわけで、すでに具体的建設運動に入っている候補地の会員は勿論のこと、全会員一丸となって建設運動を盛り上げてゆかなければならない。

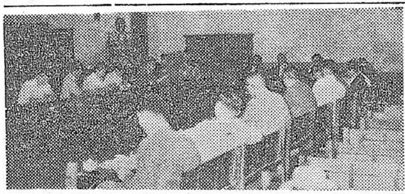
幸いわれわれの運動も、鳩山会長川崎副会長及び関係各位の働きかけや、福井実行委員長をはじめとする、実行委員の努力によって着々と軌道にのりつゝある。

〝明年度こそは友愛山荘第一号を着工しょう〟との合言葉のもと関係者の努力は続けられるだろう。

われわれはその日の感激を胸にいだきつっ大いにがんばろうではないか。

天野市長が会長に

―尾道友愛山荘建設委員会―



【尾道山荘建設委員会第一回総会】

尾道地区（広島県）の山荘建設運動は、移動文化映画班による募金映画会、各種催物による募金を計画するなど、着々と成果をあげている。とくに募金映画会は、去る九月十四日より尾道市内の各小中学校をはじめ、各地で昼夜二回開催、十月十一日まで続けることになり、中村事務局員のひきいる移動文化映画班は九月十三日夜行で東京を出発、現在尾道市で活躍中である。今回の映画班には一ノ瀬弘君（幹事・中大）藤森宏君（日大）が参加した。

一方、尾道山荘建設委員会の拡大強化を計るための改組も、本部の勧告にしたがい、同市の有力者多数を入れ建設委員会を講成、本会会員は実行委員として実際の運動にたずさわることになった。

新らたに設置された尾道山荘建設委員会および実行委員会役員は左の通りである。

尾道友愛山荘建設委員会役員

会長　天野彦三―尾道市長
副会長　吉本良槌―尾道ロータリークラブ会長
副会長　横田絢子―尾道市連合婦人会長
副会長　戒能録―尾道学校長会長
副会長　鳥居完―尾道青年会議所理事長
副会長　中尾文吉―クラブ尾道会長
事務局長　寺岡一義―尾道社会教育委員会議長
会計　土屋輝雄―友愛青年同志会
会計監査　榎本秀穂―尾道警察署長
会計監査　近藤利一―尾道税務署長
常任委員　金田幸彦（尾道公共職業補導所長）西原茂（尾道市立中学校長会長）小川正路（尾道市立小学校長会長）黒瀬優（尾道PTA連合会代表）亀川吉兵衛（尾道市農業協同組合協議会長）槙永潔（尾道市商店街連合会代表）藤井春江（尾道連合未亡人会長）佐藤繁明（尾道市青年連絡協議会委員長）高橋最宣（友愛青年同志会）

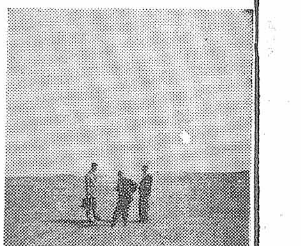
実行委員会役員（本会々員）

委員長　高橋　最宣
副委員長　前田　和元
対策部長　宗近　嘉彦
委員　前岡誠、三熊康充、実井忠義、山田明男、村上和彦、安本逸寺下哲郎、影山久、本石田明人、平山重光、竹内徹、蔵本侃

なお第一回の尾道友愛山荘建設委員会は去る九月十五日午後七時よりおこなわれ、当日は岡山県連結成大会に出席した福井実行委員長が出席、初顔合せの挨拶旁々山荘建設運動の趣意と現況を説明した引続き同委員会は九月二十九日午後一時より尾道市議会議事堂において山荘建設推進役員会を開き、委員会の運営方法等の具体的問題を討議した。

国有地払下を申請

北海道小樽市



払下申請した銭函の国有地

友愛山荘の建設計画発表以来、この計画は各地において著しい反響をよんでいたが、北海道においても前谷宏君（札幌）吉川昇一君（余市）が中心となり、小樽市銭函町大浜の国有地払い下げを申請し、山荘を建設する準備をすゝめている。

銭函は札幌・小樽の中間に位置し海水浴場として有名な土地で、払下げを申請している場所は、元道営競馬場の跡で全部が十九町歩にわたり、そのうち海浜にめんした二町五反の土地である。

今回の本部員の北海道派遣を機会に深津・北川・奥田の三常任幹事が札幌営林局・札幌営林署など関係官庁を訪門、事情聴取にあたるとともに、払下げ方を要請した。

また、奥田常任理事は現地を視察、地形図、見取図、写真等を現地に依頼したが、間もなく本部に届けられた。

帰京後九月十九日開かれた、山荘建設実行委員会では、奥田君の報告にもとずいて討議した結果、満場一致で払下げを申請することに決定、申請人を鳩山一郎会長名に名称の変更を行うことになり早速手続きをとった。

平和は学生で

私学連が主催

第一回全国学生平和会議

学生として世界平和の実現に役立つ健全なる運動を展開するため、全国私学学生自治会連盟並びに全国私立大学学生自治会代表者連絡会議では、十月十日・十一日の二日間、東京都千代田区西神田の日本大学本部会議室において「第一回全国学生平和会議」を開催することになった。

同会議は一、全人類の結集で世界平和を守ろう。一、世界の世論を尊重し即時原水爆禁止と軍縮協定を締結せよ。一、全学生は国際緊張の緩和と平和共存の為に結集しよう。一、世界平和の為に全学生は結集し健全なる学生運動を推進しよう。とのスローガンを掲げおこなわれるもので、次の三分科会に別れて討議がおこなわれる。

第一分科会（原水爆禁止平和運動について）第二分科会（日米安全保障条約の改廃と沖縄問題について）第三分科会（学園の民主化について）

なお本会では同会議の成功を祈りメッセージを送るとともに会議に学生部会員を出席させることになっている。

直言

▽三秒間隔で断続するピー・ピーという単調な発信音、ラヂオの前では、この「新しい時代を告げる音」を聞くために人々の顔も何かしら緊張感がたゞよっている。遂に人工衛星はソ連によって打ち上げられたのである。遠い空のはてからつたわるなんでもない音が、時代の象徴として今後は非常に大きな意味を持ってくるだろう。

▽人工衛星の出現によって、下界では、いろ〳〵の騒ぎが持ち上っている。宇宙旅行協会に火星の土地申込が殺到したり、望遠鏡が飛ぶような売れ行きを示すなどは御愛嬌で、ハム（アマチュア無線）連中が発信音を追うさまもいじらしくニューヨーク株式が急落したのはちょっと気にかゝる。

いずれにしろ一般にあたえた心理的影響は大きく、いよいよ宇宙時代に突入したかと大きな気持になると同時に、若しこれが兵器として使用された場合を考え核兵器出現の時以上の恐怖におそわれたこともいつわらざる気持だろう。

▽われわれは宇宙時代に突入などとセンセーショナルに叫ばれても本当のところ夢のような話しで、たゞ漠然と月や火星への旅行を考える程度だが、科学者の話しなどを聞いているうちになんとなく楽しくなってくる。しかも人工衛星はすでに打ち上げられ、われわれに向って電波を送っているのである。このきびしくもあり、またすばらしい現実を夢物語りなどと笑えない事態に至ったことは人類の勝利として率直に受けとりたい。

▽しかし、昔しから科学の圧力に抗しかねている人類のおろかさを今回もみせるのではないかと自分自身のおろかさを棚に上げるわけではないが不安の念にかられてしょうがない。

▽現在の人工衛星にはあまりにも戦争のにおいが強すぎる。先にソ連はICBM（大陸間弾導弾）成功を発表し今また人工衛星の打ち上げを突然発表するなど、国連における本格的軍縮問題討議の背景や、東西両陣営のバランスの点など織込まれているだけに、そう簡単に宇宙旅行の夢もみられない。

願わくば、宇宙に描く無限の可能性を全人類が共に持ってゆきたいものである。

東南アジア訪問日本青年代表団

九ヵ国の青年と交流

奥田組織部長十月二十三日出発

既報の通り東南アジア各国訪門の代表団人選は、各団体とも終り、正式名称を「東南アジア訪門日本青年代表団」に統一、三班に分けて出発することになった。

日青協の代表を主体とする第一班はすでに出発したが引続き第二、第三の各班も近日中に出発することになっている。

なお本会代表の奥田組織部長は第三班に属し、当初十月十五日出発予定のところ、旅券の都合により十月二十三日午前一時羽田発のBOAC機でまず香港に向け出発する予定である。

次に奥田組織部長等の予定している訪門各国及び日程は次の通りである。

（訪門各国及主な訪門団体）

香港＝友聯社、中華キリスト教青年会、香港連青社、香港青年商工会議所。

南ヴエトナム＝WAYヴュトナム国内委員会、ヴュトナム青年商工会議所。

カンボヂヤ＝ボーイスカウト連盟、学友会、ケマラ・ユヴァチョン・リッセシソワット校同窓会。

タイ＝ボーイスカウト、青少年赤十字、YMCA、YWCA、青年仏教会、タイ青年商工会議所。

ビルマ＝ユース・インプロブメント・ソサイテイ、全ビルマ青年連盟、連邦青年連盟、ビルマ青年商工会議所。

マラヤ＝WAYマラヤ国内委員会、マラヤ青年商工会議所。

シンガポール＝WAYシンガポール国内委員会、友聯社支部、シンガポール青年商工会議所。

インドネシヤ＝オール・インドネシヤ・イスラム・ムーブメント。

フイリッピン＝WAYフィリッピン国内委員会、YMCA、YWCA、フィリッピン青年商工会議所。

（日程）

羽田発（十月二十三日午前一時）香港（二十三日〜二十四日）サイゴン（二十四日〜二十八日）プノンペン（二十八日〜三十一日）バンコック（三十一日〜十一月三日）ラングーン（三日〜八日）クワランプール（八日〜十一日）ペナン（十一日〜十三日）シンガポール（十三日〜十四日）ジヤカルタ（十四日〜十七日）バンドン（十七日〜十九日）パレンバン（十九日〜二十日）シンガポール（二十日〜二十二日）マニラ（二十二日〜二十四日）羽田着（十一月二十五日夜の予定）

【北海道・余市公民館において講演する奥田組織部長】

組織発展への礎石

同志の健斗をたたえる

北海道普及工作

既報の北海道普及班は、宣伝カーの中で起伏しながら函館から道南地区を巡回し札幌に到着、札幌の官公庁・関係団体を訪問、市内で街頭演説を展開した。

こゝで前半の日程（九月八日）を終了し、後半は昼は調査、夜は座談会の形で、岩見沢・江別・美唄・滝川・芦別・旭川を回り、再び余市に（九月十四日）帰り、余市公民館・登神社の二会場で講演会を翌十五日小樽公民館で最後の講演会を開催、輝ける北海道普及の幕を閉じた。

六日夜札幌に到着した宣伝カーは翌七日早朝前谷宏君を案内者として、道庁・営林局・営林署・北海道新聞・北海道タイムス等を訪門札幌駅頭で二千枚の会紙を配付した。さすが道きっての町、洗練された美しい並木の道に会紙を手にした青年が散ってゆく。この中で次代を荷負う意識に目覚め友愛の同志たらんとするものは何人いるであろうか。

夜は清水健司君宅で徹宵で友愛について激論、彼の批判も会を育ててゆく上に大切なものである。

八日、琴似町から石狩町へと車を走らせる。農村の青年指導者を自宅に訪れ、あるいは田・畑にたずねた。握手した手に暖かい土くれが残る。

札幌に引返し大通りで街頭演説を続ける。道ゆく人の中で設営を手伝ったり、肩をたゝいて激励してくれる人が多い。

車の都合で今日を最後に余市に引返す吉川君も杉之尾君も、よく健闘した。

九日から十三日まで、札幌・岩見沢・江別・美唄・滝川・旭川・芦別を巡回、昼間は調査と青年団役員、関係者と懇談、夜は座談会を重ねて普及につとめた。

巡回した地区は炭鉱地帯が多く、芦別市に例をとると青年人口九千四百八名（十六才〜二十五才学生を除く）中、炭鉱四千九百四十名（五四％）市街二千四百四十五名（二五％）農村二千二十三名（二一％）となり炭鉱は炭労の青年部市街地青年団なし、農村は青年団（四Hと兼ねる）という状態であり、性格が全く異った青年層の中に入り込み如何に統一するかに今後の問題がある。

園田統一君（札幌）神崎邦郎君（岩見沢）岩田尊雅君（旭川）の今後の活躍が期待される。

十四日余市町で吉川幹事、近藤氏の出迎えを受け深津常任幹事と合流、余市公民館、登神社の二会場で講演会を開催「ヨーロッパを巡って」深津栄一、「青年に訴える」奥田吉郎、の題目で友愛を話の中に折込みつゝ講演、また登神社社務所、余市旅館にて会員と懇談した最後の十五日は小樽市で北本願寺福一光管長を囲み懇談、夜六時から小樽公民館で講演、聴衆は最後まで熱心に聴きいった。

半月にわたる北海道普及も終り、この間辛酸をともにした吉川君と北海道の高く広がった空を眺めつつ友愛発展への努力を誓いあった（奥田記）

国際青年会議所

世界会議開く

国際青年会議所第十二回世界大会がわが国が開催されることになり日本青年会議所（会頭三輪善雄氏・東京都千代田区丸ノ内三ノ一四東京商工会議所内）では昨年来準備を進めていたが、いよいよ来る十月十六日午前九時三〇分より東京・産経会館ホールにおいて開会することになった。

青年会議所は四十才までの小壮実業家を中心に組織されているもので、商工関係はもちろんのこと各種の社会事業も展開しており、青年運動としても大きな役割をはたしている。

友愛山荘建設寄金

本部寄託者

自・九月一日
至・九月三十日

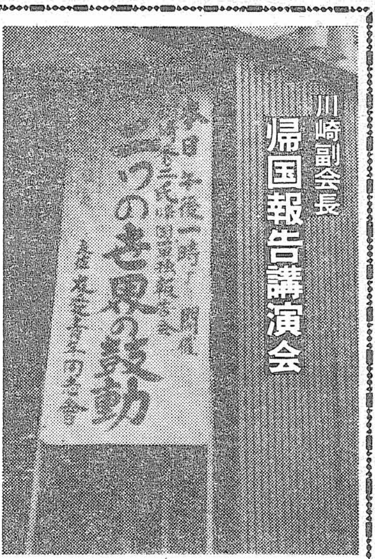
（敬称略順不同地区委員会の分は除く）

会津千恵子、野中定利、邑上親由、深谷節子、真鍋玲子、藤崎とみ子、柴一郎、大塚俊弘、来栖中翁、加藤田之介、山崎光子、石原道子、黒井要子、荒川寿子、奥村政義、大鐘一男、下川幹夫、成木清一、CMフッカー、田中重史、高橋健二、白石武二、栄節子、小泉和子、農山弼逢、高橋清次、柳沢紘、柳沢文子。

〝お知らせ〟

今般本会では振替貯金口座を左記の通り開設致しました。会費の納入または各種の送金に御利用下さい。

振替　東京四六五八九番
友愛青年同志会事務局



川崎副会長

帰国報告講演会

川崎秀二副会長は国会の代表として、国際収支の問題を研究するため去る六月二十五日世界各国視察の旅に日本を出発、約二ヵ月間、南北アメリカ各国をめぐりヨーロッパに向い、特にソ連及び東欧諸国にも足をのばし予定より多少おくれて十月二日帰国した。

その間川崎副会長は、各国首脳と会い国際収支の問題について意見の交換をおこない各国の実情をつぶさにみてきたが、モスクワの世界青年平和友好祭等にも参加、青年運動に関する各国の資料をたずさえてきた。

そこで本会でに既報の通り、川崎副会長の帰国報告講演会を十月七日午後一時より東京銀座のガス・ホールにおいて開催した。

当日は鳩山薫夫人も一般聴衆にまじり、最後まで講演を熱心にお聞になった。

講演会は、まず渡辺事務局長の開会の辞にはじまり、引続き「二つの世界の鼓動」と題して川崎副会長は約二時間にわたり、非常にわかりやすく、印象記風な話しをされた。

感銘を受けた講演内容

講演内容については後日パンフレットを作り配布する予定でいるがこゝに二・三感銘を受けた点をひろってみることにすると人工衛星の問題をたゞちにとりあげ米ソ両国の科学的水準をわかりやすく具体的な例をあげて説明し、大国が軍備費の負担に耐えかねながらも新兵器の発明に懸命になっているさまをうれい、この際政治家のとるべき態度に言及したことや西欧各国の社会保障制度の進んでいる点をわが国の現状と比較し、社会保障制度の拡充を強調したことなどは、川崎副会長の面目躍起たるものがあって聞き入る会員一同誠に心強いものを感じた。

その他ドイツの復興について、われわれも教訓としてよく考えなければならない問題を話し、また東欧諸国特にハンガリーのその後について興味深い点として、ハンガリー人の対ソ感情を話された。講演は中近東諸国の実情にもふれる予定であったが時間の関係上、今回は東西両陣営の元締である米ソ両国の実情を中心に、世界において、わが国のおかれている地位をからませ、青年学生向に話してもらったものである。

【写真は講演中の川崎副会長】

戦争放棄の諸問題

（８）

ひらがな国語体の憲法

論議の焦点はやはり戦争放棄

前号までで、戦争放棄規定の誕生経過の、いわば初期の段階を終えたわけである。ふり返ってみて、費した月日のわりに足らざるところのみ眼について申し訳ない。先頃発足した憲法調査会が、その第三回総会（一〇月二日）において、現行憲法制定の経緯を当面の議題とすることに決めた。すなわち前号までに述べてきたところであるが、その詳細な経緯を明らかにしようというわけである。すでに見てきたように、新憲法は日本人の憲法でありながらその誕生の経過の中には、未だ国民の眼から故意に隠されている点がかなり多いのである。幸い、憲法調査会の努力によってかくされた〝謎〟が漸次明らかにされてゆくであろう。戦後十年、もう憲法の面においても〝謎のカーテン〟は取り払われるべきである。国会も政府も、又当時の関係者も進んで真相を明らかにされるよう国民の一人として心ひそかに期待したい。

今号以後は、戦争放棄規定が帝国議会でどのような論議をひき起したか、原案はなぜ修正されたか、政府や議員の、戦争放棄規定に対する考え方はどうであったか、そのような点について、議会における審議経過をかえりみながら、第九条の確定に至る足跡を辿ってみたいと思うのである。

第四節　戦争放棄規定の審議と確定

一、憲法議会の開会と憲法改正の発案

「帝国憲法改正案」の確定……二一年四月一七日、政府は「憲法改正草案」を発表するとともに審査のため、枢密院に下付した。同草案は二月一三日、マ草案を受取って以来政府の全力をあげて翻訳・再検討をつづけて作成したもので第二章「戦争放棄」を含む前文及び十一章百ヵ条より成っていた。草案の作成には主として入江俊郎法制局長官、佐藤達夫同次長が当り松本国務大臣、金森徳次郎嘱託（元法制局長官、三・二六内閣嘱託となる）がこれに参与した。草案自体は、三月六日発表された草案要綱を成文化したもので内容的な変化は参議院の緊急集会、秘密会議のほかみるべきものはなかった。戦争抛棄の条項は特に二月二一日マ元帥の変更を許さないという強い指示もあって要綱を忠実に成文化したものであった。ただ、国民を驚かせたのは、「草案」が勇敢にも平仮名、国語体を採用したことである。これは全くわが国法制史上画期的ともいうべきことで、従来はすべての法律、詔勅は生硬難解を旨とした版仮名づかいの文語体で難しい漢字が多く使われていたものである。この平仮名、国語体の採用は三月二六日、『国民の国語運動』の代表山本有三・横田喜三郎安藤正次等の諸氏が幣原総理に対し「法令の書き方についての建議」という意見書を提出し、政府部内で論争を起しながら四月三日採用と決定されたものである。憲法の国語化、平仮名の採用は、その改正に伴い必然的に改革されるであろう。他の諸法令の国語化をも意味するものであって日本の民主化という観点からも圧倒的な好評をえた。

この間、憲法改正手続について国民の間からいろいろな意見が発表された。すなわち、真に国民の発意により憲法の改正を行うという形をとり、議会に修正権を認めるためには、まず現行憲法第七三条を改正する必要がある（註、七三条では議会の修正権は認められていない）又更に、改正草案が否定している貴族院がこの改正に参与するのは不適当。総選挙を行って憲法制定議会を設置せよ、といった主張がこれである。これとともに国内をゆれ動かしたもう一つの問題は、憲法改正を題目とした初の総選挙であった。当時の各政党は、共産党を除いてはすべて「戦争放棄憲法」（三月六日発表の政府の草案要綱）を支持していたが、四月一〇日第一回ーの結果は、自由党（総裁鳩山一郎）一四〇名、進歩党（代表斉藤隆夫、後に総裁幣原喜重郎）九四名、社会党（委員長片山哲）九二名、協同党（山本実彦）一四名、共産党（徳田球一）五名、無所属八一名、諸会派三一名であった。この中、共産党のみは政府草案要綱が天皇制を維持しているのは保守反動的であり、戦争放棄は屈辱的であるとして絶対反対の立場をとっていた

枢密院では無修正

美濃部氏反対、三笠宮は棄権

一方、四月一七日、政府草案の発表と同時に諮詢のためその提示を受けた枢密院は、直ちに憲法審議を開始し、四月二二日第一回審査委員会を開いた。その顔ぶれは次の通り。

委員長　潮恵之輔顧問官

委　員　林頼三郎、小幡酉吉、竹越与三郎、伊沢多喜男、野村吉三郎、井坂　孝、河原春作、美濃部達吉、関屋貞三郎、幣原坦、大平駒槌の各顧問官

政府側は、幣原総理大臣、松本国務大臣、入江法制局長官、佐藤法制局次長。

枢密院の審査はそれ以降、四・二四、五・三、五・六、五・八、五・一〇、五・一三、五・一五と計八回の会合を行い一旦終了したが、この間、幣原内閣総辞職（四・二二）、鳩山追放（五・三付）と政変がつづき、五月二二日第一次吉田内閣の誕生とともに、五月二九日改めて再諮詢案を示され第一回審査会を開いた。今回の審査は六月一日、三日の計三回で終了したが三回とも枢密院側のみで審査し、六月三日審査委員会は修正意見を否決し、原案通り可決した。ここで美濃部達吉委員のみが反対して世間の注目を集めたが、内容は公表されていない。新聞紙の伝えるところによれば、委員会の論議は専ら第一章天皇、第二章戦争の放棄に集中されたということであった。次いで六月八日、枢密院は本会議を開き潮審査委員長より審査報告、経過説明をきいた後「憲法改正草案」を大多数の賛成をもって可決した。ここでも美濃部顧問官は、深く頭を垂れて上げず、三笠宮も棄権されて遂に全員一致の賛成を得ることができなかった。会議の内容について、入江法制局長官は「全体としては今日の場合妥当であるとの見解であった。戦争放棄の条項も特に異論があったわけではないが、軍隊のない後の国内の治安を維持するため警察力の強化について考慮されたいという希望もあった」（毎日・六・九）ということで詳細な議事内容は依然かくされたままである。

政府第九条を修正

ところが、枢密院の可決と同時に政府は数ヵ所の草案の修正を発表した。この修正は、ほとんどが字句、句読点その他の表現上の訂正であり、幣原内閣から吉田内閣への草案の引つぎの間に起った修正の必要と、枢密院での八回にわたる審査で表明されたそこでの意見を採り入れるために行われた修正であろうと想像されている。

唯、注目をひくのは第九条「戦争の放棄」の条文がここで若干の修正を受けていることである。すなわち、第九条第二項の『その他の戦力の保持は許されない。国の交戦権は認められない』という表現を『その他の戦力は、これを保持してはならない。国の交戦権は、これを認めない』と修正された。一見してわかるように、従来の案文が専ら受け身的な、いかにも押しつけられた感じの変動的な表現であったのに対して、国民自らが決定したんだという積極的な表現に修正されている。理由は恐らく余りにも受け身的な表現に対する批判からであろうと思われるが、これも詳細は明らかではない。

ともあれ、以上の如くにして政府の憲法改正草案は枢密院の可決を得て、五月一六日を以て召集され六月二〇日開会される特別議会に『帝国憲法改正案』として提出される政府の原案としてここに確定されたのであった。そして、この特別議会にこの改正案が付議せられることも決定的であった。というのは、民間における改正手続について議論や共産党の反対は依然つづいていたが、しかし乍ら自由党、進歩党始め他の政党は改正案の内容には全体として賛成であり、且つ、我が国再建の基礎たる根本法規を一日も早く成立せしめるべきであるという態度をとっていたからである。

政府も又、着々とその準備をととのえ、六月一九日内閣嘱託金森徳次郎氏（現国立国会図書館長）を憲法問題専任大臣として国務大臣に任命、明日に迫った開院式にそなえたのであった。かくて翌くる六月二〇日、通常「憲法議会」と称せられる第九〇回帝国議会（特別）は開会され、戦争放棄を含む『帝国憲法改正案』は即月、勅書をもって衆議院に提出されたのである。

（次回は議会における審議）

お願い！

われわれの機関紙〝友愛〟をより良くするため、会員の原稿を募集しております論文・体験記・参加記・郷土自慢等どしどし投稿して下さい。なお原稿にはなるべく適当な写真を添えるようお願いいたします。

そのほか、本紙に対する批判や意見も歓迎しておりますからお寄せ下さい。

〝友愛〟編集局

友愛俳壇

内山一草堂選

岐阜　安藤　三径
虹しかと支へて高し新校舎
幸うすき子の墓洗ふ蝉時雨
晩涼やはるかに一つ裾野の灯

長野　小池　牛子
墓守の指す夏山のダム工事
君消えしあたり裸燈に灯虫むれ

岡山　北　正明
炎天やくつがへりたるトロ修理

栃木　蓬田　晃峯
汗ふいてボタンしないで発車待つ

東京　稲尾　守峰
ひまわりの花びらかけし松の枝

東京　都築久爽恵
大夕焼吊り革の輪に腕突込み

東京　配島　清治
月見草は雨静かにあがりけり

静岡　川眞田寒梅子
術つきて看とる風医や火蛾舞へる

神奈川　山本　素山
泣きじゃくる子に病葉の降るばかり

埼玉　三上　好次
紫陽花や黒猫の眼は黄に燃ゆる

静岡　三浦　吉春
嫁ぐこと決めかねてゐて門火燃ゆ

東京　沼尻　青里
門火して町一筋につゝましき

茨城　青木　一斗
夕焼の野を歩き来て悔もなし

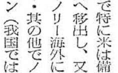
福岡　武藤　希望
書に倦めば虹立つ窓辺濃き緑

【選者吟】

人間ドックに入る
夏のはて病めばよき句を作りたし

×　×　×

〇秋の句を御投稿下さい。
（締切十月二十五日）



郷土自慢

奇祭　会陽

岡山県西大寺支部　岸　俊明

今回我々の機関紙〝友愛〟を通じて全国の友愛青年同志会の皆様方に西大寺市を郷土自慢として記載出来ました事を、支部会員一同心より感謝致しています。

西大寺市は田園都市として知られ人口四万六千余の新進都市でありますが、寺町として古く昔は川港、の栄えた所です。東部は岡山県の中心岡山市に接し、南は国立公園瀬戸内海に臨み、市の中央を中国地方の三大河川中最大の吉井川下流域を占め四季を通じて気候もすこぶる温暖で、従って農水産物は豊富で特に米は備前米で有名で、県外へ移出し、又果物は多く鴨梨（ヤノリー海外に輸出）を始めブドー・其の他でノリ、シジミシャンペン（我国では珍しいブドーを原料）等で豊富です。

西大寺市と言えば皆様方も御存知の事と思いますが、天下の奇祭裸祭で有名で会陽の西大寺として全国に知られています。前年は「ライフ」によって全世界の注目を浴びるに至りました。会陽は約四百年前忠阿上人によって始められました。昔と今日では幾分違って来ていますが四百年間毎年続けられて来ています。毎年旧正月十四日に〝宝木〟が真夜中（十五日午前二時前後）に投下され、この宝木は陰陽二本で香を塗りこめ焚きこめられて手玉宝印西大寺としるされた聖なる紙に包まれ十四日間祈願されたものです。これを約二万の裸群の渦の中へ二本一包の宝木を投下され二万の裸によって一大争奪戦が行われます。その宝木を取った人が取主で福男として賞金賞品を戴くのです。時に一人で二本も取る人が出ますが普通一人で一本でその取主は祝主の家に行き祝主より福男として祝福され賞金賞品等を戴きます。又会陽に本押し、地押し等があり地押しは地元の人々によって前祝として三日間行われ、毎日二本の宝木が夜十時前後に投下されます。この地押しの行事は小生も役員を致しています西大寺地区青年団によって行われます。その地押しが終り四日目に本押しが行かれます。本押しには地元を始め東京阪神、山陰、四国、九州方面から毎年二十万以上の見物人が集り、当日は西大寺市は県下一の都市になります。裸祭はその約一割の二万の人の中で行事が行われます。当日は観音院を始め市役所、警察署、消防署、地区青年団その他団体等によって運営されます。以上によって西大寺の会陽は天下の奇祭であり又東洋の奇祭であるかがおわかりの事と思います。小生の記事だけでは不十分で真の会陽を知る事が出来ません故、ぜひ全国の友愛青年同志会の人々に来西下さって会陽の壮観な事、又神秘的な行事であるかを知って頂きたいと思います。我々支部会員一同は心より皆様方をお待ち致して居ります。

尚友愛青年同志会の方で会陽その他西大寺市について明細な事が知りたい方はお知らせ下されば、パンフレット等をお送り致しますから西大寺支部事務所に申込み下さい。

【筆者は西大寺支部事務局長】

【写真は大床（おおゆか）ー会陽の本押しの場所】

北海道の印象

深津栄一

北海道の野党精神

開拓者たち

本来、アイヌ族以外、住んでいなかった蝦夷の地に、はじめて移り住んだ人々が、「内地」のどこかをその出身地として持っていたことは当然のことである。

アイヌの目には、彼等は一様に「シャモ」（日本人の意）として映ったとしても、それらの人々には、それぞれ故郷があった。この当然すぎる事実に、改めて考えさせられたのは、室蘭市の丁度真西内浦湾をはさんだ対岸の八雲（やくも）町の助役さんと話をしていた時だった。私がその時の話を今でも覚えているのは、その八雲の町が、私の出身地である愛知県の尾張藩の人々の集団移住によって生れたということを聞いたからである。そういえば洞爺湖に近い伊達（だて）町も、その名の示す通り、奥羽の伊達藩の人々によって造られた町であり、そのほかこのような例をあげれば、ほとんどかぎりがない程であった。そして、これらの事実を、明治の初めにおける。北海道の位置（日本全体からみた）と、当時のわが国の政治情勢とにらみあわせて考えてみると、極めて、興味深いものがあるように思われる。大政奉還、そして廃藩置県、そして「薩摩」と「長州」藩を中心として構成された明治政府と各藩の人々との対立等。今ここで明治維新史をひもとく余裕はもちろんないけれども、私には、当時、北海道にわたったひとびとが、どのような気持で、「内地」をすてて、新しい土地に移り住むようになったか、おぼろげながらわかるような気がするのである。

郷党意識と郷土愛

この、北海道に移り住んだ人々が、「内地」への、そして故郷への郷愁を絶えず感じていただろうということは理解できる。しかしそのような故郷へのおもいは、反面、別々の郷党意識を育てるという効果を持つことが、いく人かの人々によって指摘された。同じ尾張なり、仙台なりから一緒に移り住んだ人々が、そこで共通の『意識』で結びつけられていたことは決して悪いことではなかった。それは、むしろ相互扶助のあたたかい人間愛の源泉でもあった。

しかし「内地」の各地から、つぎつぎに移住者が増加するにつれそのような意識は、次第に排他的なものに変化していった。そしてどこの出身であるとか、何々県の生れであるというようなことが、人の名前と共に常についてまわり北海道という土地との結びつきはむしろ二次的なものとなる傾向を生んだ。

このような事実は、単に北海道に限らず東京のようなほとんど移住者ばかりで出来ている町では、特に顕著である。そしてそのような土地では、真の郷土愛が生れるためにはそこで子供が生れ、更に孫が生れるという長い時間的経過が必要である。北海道の人々に『北海道』への郷土愛がうすいと私はいうのではない。愛知県に生れ東京に移り住んだ私自身が、東京という土地に、まだそんなに愛着を感じることができないということを北海道で聞いたいろいろの話から連想してみただけのことである。

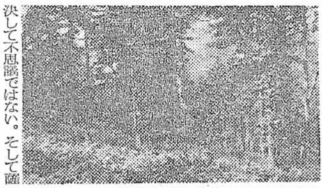
北海道の独立

函館の「五稜郭」（ごりょうかく）に行った時、北海道がわずか半才に満たない期間であったが「独立」し、「共和国」として、榎本武揚を、選挙で大統領とかあるいは、総裁とかに、選んだという話を聞いた。幕府の残党として榎本武揚は大鳥圭介らと共に明治政府に対して叛乱軍となり、海軍を率いて北海道に渡った。そして、最後は「五稜郭」の戦に敗れたという顛末は知っていたが、この「独立」のことは、はじめてであった。

そしてこの話をしてくれた人は、今度の太平洋戦争の結果、日本は米軍の占領下になったからよいようなものの、これが、もし伝えられるような終戦当時のいきさつから、北海道だけが、ソビエート軍の占領するところとなったならば（事実日本の分割占領の申入れがソ連より米国にあったと言われている。もち論拒否されたが）あるいは「北海道は今ごろ独立しているかもしれませんね」と言って笑った。

内地の不平組

北海道開拓の最初の「くわ」をふるったのは「内地の不平組」であると、ここで断言することは、若干異論があるかもしれない。しかし北海道各地の村や街で聞いたその開拓当時の話を綜合してみると、このことが、そんなにまとはずれのものでないように思われる。徳川から明治への激動期に幕府の支柱となっていた封建社会の崩壊の中で、旧士族たちが新しい土地への夢をえがいたとしても、それは決して不思議ではない。そして薩長藩支配する政府の中枢には他藩者は坐り得ないような「内地」の政治情勢の中で、大政奉還にも廃藩置県にも、そして明治政府そのものに対しても、反対であった人々が、北海道を開拓したのだと私はふとそう思うた。そして私は札幌にある北海道庁の前で、その美しい開拓時代以来の赤レンガの建物の「主」が誰であるかに気づいた時、北海道には、明治以来、伝統的に「野党」の血が脈々と流れているのではなかろうかと思った。



北海道から帰って

北海道に「開発庁」をおいたのは野党の「知事」に対する保守党政府のいやがらせであるという意見があった。社会党の代議士や道会議員の数が多く、町長にもその系統の人が多い。そして北海道の青年が「社会主義」的であるとは決して私は思わないが、しかしよい意味で「野党」的であることは確かであるようだ。

そして「政治」が本来対立の中から生まれ、多数者と少数者と、与党と野党と、一つの意見とそれに対する反対意見が、自由に生まれるところに民主主義の真の意義があるとするならば、その「独立」の時代以来、一貫して「野党的」である北海道の「政治的な意義」は極めて重要であるといわなければならない。

北海道ではいろいろなことがあった。真宗北本願寺派の管長さんという人に会い、東西両本願寺に叛旗をひるがえし、両派からの迫害に抗しながら一派を樹立したという極めて「野党」的な物語を拝聴した。興味よりも教えられるところが多かった。「熊なみ、馬なみ、人なみ」という言葉が北海道にあると言うことだが、狩勝峠をこえた北海道の東部で実際熊のような感じの「道会議員」に会った。名刺を出されて「道会議員」とわかりおどろいたような次第であった。

何しろ、友愛の仲間では、誰よりも野党的であると考えられている奥田吉郎君（組織部長）に対してさえも、そのソツのないところが「岸首相」に似ており「官僚的」だと言った人がいた位の土地柄である。とっつきの悪い私のような者が仏頂面をさげて行けば、どんなことになるか想像がつくというものであった。

北海道の旅で行を共にした奥田君は近く東南アジアへの旅に立つ。そして北海道の「熊」もまた二匹、インドのニュー・デリーにネール首相へのお土産として行くということだ。阿寒国立公園のバスのガイドが「北海道といえば熊、……熊といえば北海道……」と宣伝していた位だから、熊は北海道の人々にとって象徴でもあるのだろう。スイスのベルン市民が、市のマスコットとしての「力強く、自由な」熊を愛好するように、北海道ではもっとも「野党」的な熊が親しまれているに違いない。

北海道を愛する奥田君が、そこの熊とあい前後して海をわたることも、彼にとって感慨深かろう。

私は、彼と一緒に過した一週間ばかりの北海道で、彼のすぐれた組織能力に敬服し、そして街頭演説や講演、座談から街頭のビラ配りまで、すべて立派にやってのけられるような人を、会は、もっと何人か持たなければならないと思った。

奥田君の旅の安全と健康を心から祈りたい。彼自身と彼の両親のために、そしてまた「友愛」のためにも。

══友愛山荘══

建設候補地

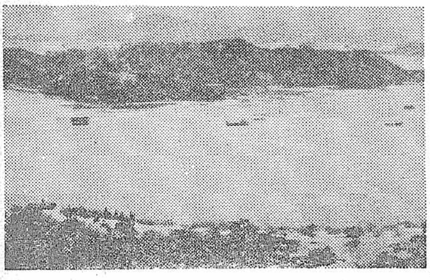
中国地方

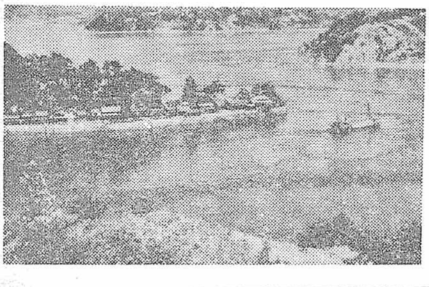
上・児　島（岡山県）

——鷲羽山の展望——

下・尾　道（広島県）

——尾道附近の瀬戸内海——





部落解放問題を探る（二）

部落の形成

前身において、部落は徳川幕府の政策から作られたことを明らかにしたが、ではどうしてこのような政策をとったかを解明してみよう。わが国の封建制度は古くからその芽を出しており、したがって〝身分制度〟も奈良時代にみられる良民、賤民の区別や、平安時代の手工業者や運送業者などを荘園内の一定の場所に集めた「散所の民」等一応は定まっていた。しかしこれは歴史が示すように不安定なもので、これらの者の中から富豪や地位の高くなった者が出てきている。

われわれも承知のように、わが国における封建制度をガッチリと作り上げたものは徳川幕府であり、この制度の支えとなる身分制度も必然的に徳川幕府によって完成されたとみるべきであろう。

徳川幕府に先がけ豊臣秀吉も武士と一般人とを分け、今まで一般の百姓や町人でも姓を名のり武器を持っていたことを禁止している。それが徳川幕府の時代に入ると、差別制度にいよいよ磨きをかけ一般人の中にいろいろな身分を作りいわゆる士農工商の差別を作り、さらに一段下ってエタ非人の制度を作り出したもである。こゝで問題になるのはなぜ多くの階級を作り差別したかである。

封建制度を単適にいうと「主人と家来」の関係で世の中を治めてゆくやり方で、そこには主人の絶対的な支配権があるのみで、今でいう人権がどうのこうのと心配する必要もなく、主人の言いつけ通りに従がわなければならない制度であり、少数の人間（主人）が多数の人間（家来）を支配する制度でもあるといえる。

身分制度は少数の人間が多数の人間を支配してゆく場合最も都合の良い制度で、多数の人間をいろいろな階級に分け、お互の利害が相反するようにして、対立させれば決して一つになって支配者に向ってくることが出来ないからである。

この良い例は、イギリスのインド支配の歴史である。イギリスはインド支配のモットーとして「分割せよ統治せよ」を一貫して掲げ、古くからあるカースト（インドの身分制度）や宗教的対立（ヒンズー教と回教の対立）を助長する政策がとられていたので、独立運動に非常な障害となっていた。また独立後の今日といえども、いまだに明確に身分は区別され、ネール首相の努力にもかゝわらず、カーストの問題は解決されそうにもないことを報じている。

わが国の例をみると江戸時代の百姓一揆や、天主教徒（キリスト教徒）の弾圧のため部落民を使った記録が多く、百姓や町民と部落民をことさらに対立させていることがうかがい知れる。最近では先の近江絹糸の争議中に会社側は工場附近の部落民を使いスト破りをおこなわせようとしたように、現在でもこのような卑劣な方法を考えている人がいることを物語っている。

被支配階級の大部分をしめる農工商の下にエタ非人を作ったことはこれらの人々の不満を支配階級に向けさせず、自分達の下の階級の人々に向けることによって、排け口を作った誠に巧妙な政策が、部落をだんだんと形ち作り、一般民衆と部落民との対立感情を深めていったことがわかる。

部落民との差別が特に厳しくなったのは、元禄年間といわれ、江戸時代もこの頃になると太平になれ、武力より金力が物をいう時代となり、商人の力はあなどりがたいものとなってきた。また商工業の発達により農村から離れる百姓の数も次第に多くなり農村では手不足から、部落民を雇って働らかせるなど経済的事情は身分制度のたがをゆるめる結果となった。このような状態を支配階級が見逃すわけがなく、幕府の支配を維持するため、完全に部落民を最下層の身分にしばりつけてしまったのであろう。

部落民と一般人との結婚は勿論禁じられ、一般人が部落民を雇うこともならず、住むところまで制限して、一般人とまったく隔離した生活をよぎなくされた。彼等は皮造りや、竹細工等のゆるされた職業を続けながら、一般からさげすまれて、明治四年の解放令を聞いたが、エタ・ヨツ・チョーリンボの声はあらゆるところで口にされ差別は厳として生きている。それに加えて昔から部落産業として保護されていた皮造り等の経済的特権がなくなり、解放令の「エタ・非人の称号をやめる、職業は自由である」はかえってあだとなり、農業をするにも土地がなく、商売するにも金がないで、何んら保障のない解放令は実際には空文に等しかったといえる。

以上前号と合せて部落の形成について、その形成を中心に述べてみたので、次号からは、部落の実態や解放運動等について述べることにする。

友愛文化部案内

本会では会員相互の知的向上をはかり、レクリエーションをかねる意味で次のサークルを設けてありますので、新入会の方々の参加をお待ちしています。

サークルは（A）研究会サークルと（B）レクリエーションサークルの二つがあります。

A　研究会サークル

研究会サークルには次の三つがあります。

A、友愛と民主主義研究会 —本会の発足とともにもうけられたもので、カレルギーの『自由と人生』『思想は世界をめぐる』（鳩山一郎訳）をテキストにしています。（毎月一回開催）

B、自衛と憲法研究会 —いまさらくどくどしく述べるまでもありません。われわれの自衛とわれわれの憲法について研究するために設けられています、講師としてその道の権威ある方にお願いしています。（毎月一回開催）

C、農業問題研究会 —わが国の農家人口は人口の約40%を占めています。その上農業問題はきわめて複雑多岐でありこれを適確に把握することはわが国の政治を理解する上に必要なことなので各講師から有益な講義を受けています。（毎月一回開催）

B　レクリエーションサークル

これには次の六つがあります。

D、山友会 山登り・ハイキングを趣味とする人達の集まりでアルピニスト級から散歩ラクスまで、とにかく歩くことをいとわぬ人達が集まっています。伊豆一周の旅、武蔵野散歩などを行いました。（責任者鶴巻克雄）

E、合唱団 —毎週金曜日に練習しています、現在男女とも五〇人、特に一般の参加を歓迎するよし。会費毎月五十円。（責任者・早川忠光）

F、俳句会 —毎月二五日までに友愛俳壇に官製はがきで投稿して下さい。一人一回五句以内。入選作は翌月の機関紙に掲載。選者斎藤青峰、内山一草室、添削希望者は同じく友愛俳壇まで返信料封筒同封のこと。句会は毎月一回開催。（責任者大西康治）

G、文芸部 —同人誌『遊流』を発刊しています。毎月二十五日が原稿締切、未発表文芸作品の投稿歓迎。但し掲載は厳選します。同人十二名によって運営、同人加盟は全同人の推せんによります。（責任者・中村男一）

H、弁論部 毎月二回の練習を行っています、優秀者は適時地方遊説に派遣します。顧問に中日弁論会理事長河村友次氏をお願いしています。（責任者・一ノ瀬弘）

I、スキー部 —毎冬妙高つばめ温泉に合宿します。初心者歓迎。（責任者・宮沢一英）

J、映画鑑賞サークル （責任者・高杉信美）

申込方法 ABともに入会と同時にそれぞれのサークル宛申込まれるのが便利です。申込先はすべて本会事務局あてのこと。受付と同時に責任者より詳細を連絡いたします。申込用紙適宜、但し職業、年令、経験等詳しく記入のこと。

友愛青年同志会文化部

岡山県連力強く発足

会長に土井昭道君を選出

結成大会で挨拶する加藤名誉会長

岡山県支部連合会結成大会は去る九月十五日午前十時より岡山市上石井自由会館において、本部より福井山荘建設実行委員長、渡辺事務局長、尾道地区代表宗近嘉彦君及び来賓として岡山県議会副議長菅野幸嘉氏等を迎え、同県下の各支部、地区の代表者が参集盛大に開催された。

同結成大会は山本幹夫君（倉敷支部長）の開会の辞にはじまり、議長に渡辺嘉久君（笠岡支部長）副議長には妹尾要君（西大寺支部長）安原隆君（庄地区）をそれぞれ選出まず土井昭道準備委員長（児島支部長）の経過説明があり、各来賓の祝辞、祝電の披露があって、県連規約の審議に入った。規約は一応明年三月迄の期限をつけて全会一致で承認され、県連の具体的事業計画は第一回の幹事会において討議することにして、一旦休憩その間各支部長・地区責任者により役員選衡委員会が開かれ再会後ただちにその結果を議長より発表、これを全会一致で承認、山本君が大会宣言文を力強く読み上げ、最後に加藤武徳名誉会長の発声により岡山県連万才を三唱閉会した。

岡山県支部連合会役員

会長 土井昭道（児島支部）
副会長 渡辺嘉久（笠岡支部）
〃 山本幹夫（倉敷支部）
〃 妹尾要（西大寺支部）
幹事 北 正明（岡山地区）
〃 安原 隆（庄地区）
〃 佐藤和正（興除地区）
〃 森分康三（玉島地区）
〃 石我直三郎（藤田地区）
〃 海原 登（落合地区）
監査 高原正太郎（岡山地区）
〃 山下武男（笠岡支部）
事務局長 尾崎武（児島支部）

× ×

名誉会長 加藤 武徳

県連事務所
岡山県児島市本荘通生
土井昭道方

今後の運営を協議

＝岡山県第一回幹事会＝

岡山県連の第一回幹事会は十月六日岡山市において開催され、結成大会で持ち越されていた、具体的な問題について協議した。主な協議事項は次の通り

一、県連各部長及び副部長
大体内定をみたが正式決定は次回幹事会（十月二十日）でおこなう。

一、友愛山荘建設運動と候補地の選定に意見の調整

一、各支部・地区の行事（特に地方的に特異なもの）等には相互に案内し交流を深め協力体制を整える。

一、県連機関紙を月一回発行する

一、「友愛タオル」を販売する。

一、資金獲得のファッションショーを開催する場合、岡山、笠岡倉敷、西大寺等が協力実施する

一、会員各自が一人以上の会員獲得運動

一、賛助会員の増加

その他今後の県連運営について種々協議した。なお次回の幹事会には各支部・地区から幹事のほか一人以上を出席させることにした。

渡辺笠岡支部長を招き報告会

＝西大寺支部＝

西大寺支部（岡山県）では九月二十九日先般アメリカ・ミシガン州マキノ島でおこなわれたMRA大会に参加した渡辺嘉久君（笠岡支部長）を招き報告会を開催した。

墨東連合支部の懇親会

墨東連合支部（東京都）では、支部会員相互の親睦を深め、今後の支部運営を円滑におこなうため、十月十三日午後三時より墨田区隅田町一の一三五六内古閑医院離において親睦会を開くことになった当日は本部からも渡辺事務局長ほか数名が出席、支部会員と話し合うとともに、友愛合唱団の早川君指導のもとに合唱練習をおこなう予定である。

結成は明年三月

準備期間を充分とる

東京都連

東京都支部連合会結成は本年十月上旬を目標に準備を進めていたが去る九月二十九日の結成準備委員会において、諸般の情勢を検討した結果一応結成を明年三月上旬に延期することになり、その間本部の東京都内組織工作に協力、より強力な都連結成をめざすことになった。

結成準備委員会で決定された事項は次の通りである。

一、組織部が計画している東京都の本格的組織工作に協力するため、各地区の責任者が中心となり地元の状況を調査し組織工作を容易にする。

（イ）組織工作は明年一月中旬より約一ヵ月間おこなわれる予定で具体的実施要項は十二月十五日迄に組織部において立案する。

（ロ）地区責任者は勿論、一般会員も地元の状況を出来るだけくわしく事務局に報告すること。

一、「東京友愛」の発刊
都連機関紙として毎月一回（タブ二頁）発行する。

一、都連結成準備委員会の強化
本部役員をはじめ新人を準備委員に加え強化する。

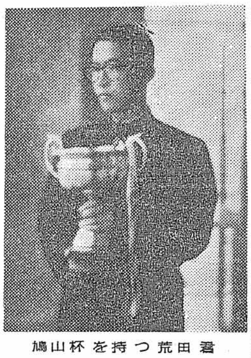
一、都連結成を明年三月上旬におこなう。

一、都連結成準備委員会事務局を本部事務局内に置く。

第二回鳩山杯争奪県下優勝弁論大会

荒田君（盲学生）優勝

岐阜県下の青年学生集う



鳩山杯を持つ荒田君

岐阜支部結成を記念しておこなわれた第二回鳩山一郎会長杯争奪岐阜県下優勝弁論大会は、既報の通り十月六日午前九時より岐阜市岐阜タイムス大ホールにおいて開催された。

同弁論大会には岐阜県下の各地から青年・学生代表三十五名が参加日ごろの抱負をかたむけて熱弁をふるったが晴れの鳩山杯は〝片目の猿〟と題して終始真摯な態度で自分自身の生活をとりあげ熱弁をふるった岐阜盲学校の荒田征爾君が獲得、第一回に引続き優勝が盲学校生徒によってしめられた。成績は別稿の通り。

なお本部からは奥田組織部長、一ノ瀬弘君（幹事・中大）宮田靖君（日大）等が出席それぞれ審査に当り、来賓として三田村武夫代議士等が出席された。

第二回鳩山杯争奪岐阜県下優勝弁論大会成績

❶片目の猿＝荒田征爾（岐阜盲学校）
❷やはり私もウソはつくまい＝松田博之（岐工OB）
❸生への喜び＝長谷川光一（七宗青年団）
❹話せばわかる＝塩谷進（岐阜盲学校）
❺苦悩の中で我等は前進する＝梅田逸旺（岐南工―定時）
❻爆音＝吉岡喜代子（日紡垂井）
❼平和への とびら＝村瀬 美代子（岐北高）
❽若き 意欲＝深尾 たき子（長良高）

友愛山荘募金映画会

一ヵ月間岡山市を巡回

引張りだこの移動文化映画班

移動文化映画班による「友愛山荘建設募金巡回映画会」は尾道地区において相当な成果をあげているので、岡山市でも募金映画会開催の計画をたて現在関係各方面と連絡をとっている。

同映画会は、本会岡山地区に岡山ペンパルズクラブが協賛しておこなうもので、尾道市と同様、移動文化映画班を招き、岡山市の小・中学校の生徒を対象にしている。また夜間には一般にも呼びかけ開催する予定でいる。

なお今回の募金映画会を計画するにあたり、岡山県教育委員会に後援を依頼したところ、去る九月二十五日付をもって承認された。募金映画会の開催方法及び上映映画は次のとおりである。

【開催方法】

❶小・中学校児童を対象とするもの
各学校の講堂又は教室で上映し、生徒一人十円の料金を頂く、但し要保護家庭の生徒の分として一割分の料金は免除する。

❷一般を対象とするもの
原則として昼間上映した学校の講堂を借用して夜間一般の方に公開し一人二十円の料金を頂く。

【上映映画】

劇映画「おふくろ」日活作品
文化 映画「荒海に生きる 女たち」新生活運動協会製作「友達への手紙」USIS
その他マンガ・ニュース
上映時間（二時間五十分）

【申込先】

・岡山市大供 岡山市役所秘書課
吉岡 一正
・岡山市天瀬九三
友愛青年同志会岡山地区責任者
北 正明

山荘委日誌

八月十二日
渡辺事務局長・奥田渉外部長、軽井沢に鳩山会長を訪ね山荘建設運動について報告、同時に鳩山会長提供になる山荘建設用地を視察。

八月十八日
尾道友愛山荘建設促進協議会出席のため、尾道市に渡辺事務局長出張。

九月十四日
尾道友愛山荘建設募金映画会開始（移動文化映画班―中村・藤森両君十三日夜行で東京出発）

九月十六日
福井実行委員長、尾道友愛山荘建設委員会第一回総会出席のため尾道市に出張。

九月十八日
友愛山荘建設候補地について打ち合せのため江成田良治氏（神奈川県愛甲郡愛川町半原九四四滝の湯館主）本部来訪。

九月十九日
山荘小委員会（福井・渡辺・奥田・北川・川手・早川・高野）午後六時於本部事務所

十月七日
北海道小樽市銭函町大浜の国有地売払下申請書を旧申請人前谷宏（北海道青年協会理事長）新申請人鳩山一郎名に申請人名称変更願を札幌営林署長宛提出。

消息

○玉島地区（岡山県）責任者森分茂君は今回康三と改名した。

○桑原孝行君（広島県尾道地区）は尾道市 原田町 に「新原田温泉」を開館・十月十五月に開館披露をおこなう。

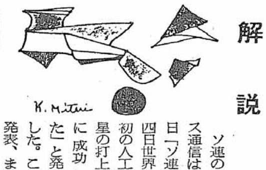
○牧野民子さん（常任幹事・婦人対策部長）は十月十二日東京・産経会館において石井氏（産経社会部記者）と華燭の典をあげる。

○鶴巻克雄君（常任幹事・文化部長）は先に万国歯科学会に出席のためローマにおもむいたがその後約二ヵ月間ヨーロッパ各国を歴訪、十月十八日午後十時三十分着日航機で帰国の予定。

解説

宇宙時代の兵器か？

＝V1・ICBMと人工衛星＝



ソ連のタス通信は四日「ソ連は四日世界最初の人工衛星の打上げに成功した」と発表した。この発表、まさに本年度ビッグ・ニュースの最大のものとなるであろう。人工衛星とは文字通り人間の作った衛星であって、人類は遂に宇宙征服への巨歩を一歩大きく前進したわけである。この前進の第一の意義は、何といっても従来神秘とされていた宇宙の密度や気象を適格に人類が知り得るということであろう。それは人類が宇宙旅行を成功させる次の段階の基礎を作ることである。そしてこのことは、地球の重力を離脱するロケットの成功を意味する。いわば人類は、原子力の解放（昭和十七年シカゴ大学で原子核の連鎖反応に成功）から〝重力からの解放〟へと驚くべき進歩を今世紀にとげたわけである。地球の重力から解放されるには秒速八キロ以上という音速の二十倍の推進力を必要とする。ソ連がそれを克服したということは、八月二十六日ソ連が発表した「超長距離大陸間多段式弾道ミサイル」（ICBM）の完成を裏づけるものである。人工衛星成功の第二の意義が、この軍事的利用の面にみられるのである。第二次大戦末期、敗色濃いドイツが産み出した飛行爆弾V1から長距離誘導弾ICBMの発明に至った人類は、遂にその弾の飛ぶ超高空の宇宙へ辿りついたのである。

V1はジェット・エンジンを装備する飛行爆弾で、一九四四年六月一三日初めてロンドン攻撃のため仏国カレーから発射された八三〇キロの爆薬を積み時速六〇〇キロメートル、射程二五〇キロであった。V2はロケット・エンジンを装備し射程三〇〇キロ、時速は音速の二倍を超えたこれらはともに世界最初の長距離ミサイル（誘導弾）ではあったが電波の誘導装置は持たず前もってねらいを定めて発射された。ドイツの次の段階はアメリカ本土攻撃用の射程五〇〇〇キロ、二段ロケットのA9・A10の計画であった。この設計図が終戦後ソ連の中距離弾道ミサイル（IRBM）作成の基礎となり、また究極兵器と呼ばれるICBM完成への道を開いた。

ICBM（ミサイル―飛行兵器ないし誘導弾）は、ロケット又はジェット・エンジンで飛行する爆弾をいい誘導装置を備えて一〇〇〇キロ以上の高空を超音速で正確に目標に向って飛ぶもので、ソ連が八月発表したミサイルは射程八〇〇〇キロといわれる。そうなると地球上いかなる地点へも到達するわけで、次の戦争はこのミサイル発射装置のボタン一つ押すことによって大勢が決定することになる。次の戦争がキイ・ウオー（ボタン戦争）と呼ばれ、ミサイルが「究極兵器」と呼ばれるわけである。

ただ現在の世界各地の経緯度は相当の誤差があり、地図が不正確なので今日のミサイルの命中率は低いの ではないかと いわれてきた。又、ミサイルの飛ぶ超高空の気象は未だ分らない点が多かったのでその実戦における効用が疑問視されていたのである。それらの障害を取り除くのが、今回の人工衛星成功の大きな軍事的意義なのである。人工衛星は人類未踏の高空で大気状態やミサイルの弾道の障害を示し、地球の地殻の構成や本当の姿正しい経緯度を明瞭にさせるであろうからである。世界の戦略を根抵から変革せしめるかも知れない。人工衛星の完成は宇宙旅行を夢みる人類の〝夢〟が実現への一里塚でもある。しかし、科学の進歩に人類が滅される非喜劇の種とも思えるような暗い影を宿している。これは何とも悲しい世界の現実というほかはない（北人）

友愛青年同志会会則（抄）

第一章 総 則

第一条 本会は友愛青年同志会と称する。

第二条 本会は本部を東京都に置く。本会は必要に応じ、地域別または学校別に支部を設けることができる。支部に関する細則は別に定める。

第二章 目的及び事業

第三条 本会は友愛精神を基調として青年の団結を図り、政治・経済・社会および文化の全面に亘って公正なる識見を博めるとともに、青年の学識および社会活動を援護して共助共在の実を挙げ健全明朗なる民主社会の実現と自主独立の文化国家の建設に挺身することを目的とする。

第四条 本会は前条の目的達成のため左の事業を行う。

友愛精神および民主思想の啓培思想防衛と自衛体制並びに生産増強および国土開発を目途とする愛国運動の推進。
社会福祉と厚生文化を基本とする新生活運動の展開
世論調査並びに青年運動に関する資料の調整
青年の学究および社会活動に対する援護協力
国際親善に資する青年運動、講演会、公聴会、討論会、座談会、その他各種催物の開催
機関紙および各種刊行物の編集刊行その他本会の目的達成のために必要なる事業

第三章 会 員

第五条 本会の趣旨に賛同し会則を守る男女青年をもって会員とする。新しい入会者は定められた入会申込書に所定の事項を記入の上入会金及び会費をそえて居住地の支部に申込むものとする。

第四章 役員及び機関

第一節 役 員

第九条 本会の役員は、会長一名、常任幹事（経理一名を含む）及び幹事若干名、事務局長一名、監査二名、統制委員若干名とし大会において選出する。

第二節 機関及び機構

第十三条 本会に大会、常任幹事会、幹事会を置く。

第五章 組 織

第一節 支 部

第二十二条 組織の基本を支部とし、同一市区町村及び学校を単位として、会員二十名以上をもって構成する。これにみたない場合は班又は地区と称する

第二節 支部連合会

第二十四条 同一都道府県内に二個以上の支部がある時は、支部連合会を組織する。

第六章 会 計

第二十六条 会費は会員一名年額二百円とし二期（四月・九月）にわけ支部より本部に納入する。支部費は支部が定める。